

(1)学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
進路指導	<p>1 生徒一人ひとりの能力を引き出し、豊かな創造力と思考力を育成し、個々に目標を持たせて希望進路の実現につなげる。</p> <p>(1)入学時から進路決定までのキャリア教育を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの進路希望を明確に持ち、実現のために積極的に自ら行動できる力を養う。 ・進路ガイダンスやキャリアアップセミナーを通して、勤労観、職業観を育てる。 ・必要とする資格、適性等の理解を深め、進路意識の高揚を図る。 <p>(進路ガイダンス・キャリアアップセミナーの実施、1・2年生2回/年、3年生5回/年)</p>	<p>(1)キャリア教育の中の勤労観を培うために、</p> <p>1. 2学年については講師を招いて講演形式のガイダンスを実施した。</p> <p>また、学年集会での進路講話を行った。</p> <p>3年生は1学期に進路ガイダンス、外部講師によるキャリアアップセミナー、企業人講話を行なった。夏休みには企業見学会への指導、2学期には進路ガイダンスを行った。進路ガイダンス、キャリアアップセミナーの実施は目標を達成した。</p> <p>昨年度より入学式後に実施している新入生と保護者を対象にした企業の方を招いてのキャリア講演会を今年度も実施し、入学から卒業までの計画的なキャリア教育を通して、進路実現への意識を高めた。</p>	<p>(1) 指導の時間の確保が困難である。普通科高校では総合学習の時間などで指導時間を確保していると考えられるが、本校では、新規で時間を確保する必要があるため、他の行事との調整を図りながら、見直しの必要がある。</p> <p>日常の指導において、言葉遣いや入退室は全ての教員、管理室で統一した指導が行えるように指導の統一を申し合わせる必要がある。</p> <p>企業見学会の準備とフォークリフトの講習と時期が重なっていたので、事前に協議して生徒がスムーズに見学準備が行えるようにしたい。</p>
工業科	<p>1 生徒一人ひとりの能力を引き出し、豊かな創造力と思考力を育成し、個々に目標を持たせて希望進路の実現につなげる。</p> <p>(1)国や地域に貢献する中堅技術者を養成するために、技術を伝授するだけでなく、自ら創造する力、課題に対して前向きに粘り強く取り組む力を身につけさせるとともに、礼儀や挨拶など社会人としての基本的資質を身につけさせ、知力、体力、精神力のバランスのとれた人間を育成する。</p>	<p>(1)電気科においては、第2種電気工事士試験、第1種電気工事士試験、危険物取扱者試験乙種4類合格のための早朝補習と放課後補習を実施した。(各学期)</p> <p>第3種電気主任技術者試験のための夏休み補習、冬休み補習、春休み補習を実施した。(年間40-50日)。クラブ活動と資格取得を両立できるように、時期、曜日、時間等に配慮した。</p> <p>また、課題研究においてもものづくりに取り組んだ。クリーンエネルギー、農業、環境を取り入れたエコファームの推進を行なった。</p>	<p>(1) 第2種電気工事士は、2年電気科39名受験中29名が最終合格。3年電気科12名中7名が合格。電気科合計50名中、36名合格。(合格率72%)第1種電気工事士は、2年電気科13名中10名合格。3年電気科6名中5名合格。電気科全体19名中15名合格。</p> <p>(三重県合格者数順位1位。全国順位32位)</p> <p>危険物取扱者乙種4類は、1年電気科40名中34名合格。また2年電気科39名中38名が乙4類免状所有。2年電気科1名は危険物甲種合格。資格取得について、今年度は順調な成果を得ることができた。</p>

工業科	<p>(2)工業技術基礎、実習内容の見直しを進め、最近の社会情勢の中で、ものづくりの楽しさ、完成時の喜びを感じ、技術・技能の向上につなげていける指導を目指す。</p> <p>1年次では、日常生活に生かせる常識的な工業的事柄も取り入れるとともに県内でもめずらしい模型製作を通して、楽しみながらものづくり基礎を学ぶ指導を行う。また、積極的に補習授業を行い、国家資格合格に挑戦する。</p>	<p>(2)機械科においては、模型作りを工業基礎の1パートに組み込み楽しみながら学ぶ指導を実現した。日常生活に関係する工業系の常識的ことがらや機械系の基本的な知識を盛り込んだテキストを作成し、毎時間に1テーマの講義を行った。「危険物取扱者試験」の合格率のアップのために放課後の補習を行った。また取っかかりをやすくするために「マンガで学ぶ・・・」のテキストを用いるなど学習目標としては達成した。</p>	<p>(2)ものづくりの経験の少ない現代っ子に完成した喜びや達成感を得ることができ、今後のものづくり実践に挑戦する意欲を養うきっかけになった。工業に関する一般常識を学習することで、興味関心が、以前とくらべれば高くなり次のステップへの抵抗が少なくなったことや基礎から応用へとスムーズな学習高率がえられたことが成果である。今後の課題としては、生徒の資格取得の意識向上と補習時間の見直し、テキストの活用法など検討課題が上げられる。</p>
------------	--	--	--

(2)組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強み	<p>① 教員個々の専門的知識・技量は高く、専門的知識・技量を活かしたきめ細かい指導を行うことができる。</p> <p>② 厳しい就職状況において、100%の内定を達成できたのは、専門性及び資格取得を生かした成果でもある。</p> <p>③ 資格取得の指導に熱心であり、成果を挙げている。メディアの取材も受けて、地域に本校の取り組みを知ってもらえた。</p> <p>④ 工業系クラブ活動において、各種競技会に積極的に参加して優秀な成績を挙げ、レベルの高さを示した。各種メディアの取材を通して、地域社会へ本校の活動を広くアピールできた。</p>
弱み	<p>① 教員個々の能力は高く成果を挙げているが、それぞれの持つ能力を結集してより大きな力とする意識に欠ける。</p> <p>② 各科の枠にとらわれ、各科の枠を超えて連携、協力する意識が希薄である。</p> <p>③ 過去の実績や取組にとらわれて、新しい取組や視野を広げる意識が希薄である</p> <p>④ 現状の分析、問題点の洗い出し、改革に向けた取組を行う組織体制ができていない。</p>

(3)組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組
<p>① 年度当初の計画立案において、できる限り具体的な数値目標化を図り、細かな年間計画を立てる。</p> <p>② 年間を通して、定期的に行進状況を確認して、修正すべきところは修正し、目標達成に向けて取り組める組織作りを行う。</p> <p>③ 各科、各分掌の目標設定、取組計画は、それぞれの科や分掌だけでなく、学校全体としての目標設定、取組計画になるよう連携をとりながら作成、実施していく。</p> <p>④ 職員のコミュニケーションを深め、共通意識を高めるために、オフサイトミーティングの参加者を増やす。</p> <p>⑤ 入学時から卒業時の進路決定まで、一貫したキャリア教育・進路指導を行い生徒の進路希望の実現を図る。</p>

